

事業計画書

事業名	「望月アース・スキル・アクション(Mochizuki Earth Skills Actions)」	
重点テーマへの該当	有 テーマを記載	
	無	
実施箇所	佐久市望月内	
実施期間	事業開始予定年月日	令和 2 年 7 月 1 日
	事業終了予定年月日	令和 3 年 3 月 31 日
事業概要	<p><事業の目的> 「望月アース・スキル・アクション (Mochizuki Earth Skills Actions)」は、気候変動とその危機を地域で考え、これからの世の中で「生きる力＝アース・スキル（造語）」を磨いていくことを目的とする活動です。 まずは、今世界で何が起きているかを、できるだけ多くの人に「知ってもらおう」ことが重要であり、講習会の定期的な開催を計画しています。 今年度は、昔ながらのエコ・バッグである竹かごについて教わりながら実際に制作するワークショップをはじめ、地元の農家の方々から見た気候変動について、また、風力発電などのエネルギーの地産地消、古くなった着物や古布をリサイクルし鞆などを作るなど手仕事の大切さを学ぶこと、これら3回の講習会を計画しています。 これらの地域活動を通して、望月地域で古くから営まれてきた農業、手仕事、循環型社会のしくみを世代を越えて学び、これから大きく変化するであろう気候に適応していくための「知恵」の共有や準備が主な活動です。</p>	
	<p><事業の内容（令和2年度）> ・講習会「気候変動と私たちの暮らし」の定期的な開催 ・地元の講師を招いて竹かご制作ワークショップ ・地元の講師を招いて農業、エネルギー、手仕事についての3回の講習会 ・気候変動問題を解説するパンフレットの制作、配布 ・Webサイト運営にて情報提供 ・講習会などの参加者のその後の考え方の変化などを追跡するアンケートの実施や、講習会の内容をまとめた冊子の発行</p>	
	<p><達成目標（令和2年度）> 講習会や、子どもにも読んでもらえるような気候変動問題を解説するパンフレットの配布、Webなどでの情報発信によって、多くの人が現状を知り、自分たちの生活の中でできることを考えたり、ワークショップによる世代を越えた交流によって、地域で気候危機・環境問題に取り組むきっかけ作りをすること。</p>	
	<p><広報表示の方法（佐久市まちづくり活動支援金事業である旨の表示）> レクチャーのチラシ、パンフレット、Webサイト、SNSなどに明記。</p>	
	<p><重点テーマに該当する場合 該当する理由（アピール）></p>	

年間計画	4月	
	5月	
	6月	
	7月	・Webサイト、パンフレット制作開始
	8月	・Webサイト運営開始 ・パンフレット配布開始 ・望月有線放送で告知 ・望月地区各区でパンフレットの回覧
	9月	・講習会「気候変動と私たちの暮らし」 →講師：ロジャー・マクドナルド ・竹かごワークショップ →講師：布施地区「趣味の館」の方々 ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定)
	10月	・講習会「地産地消のエネルギーについて」 →講師：NPO法人未来工房もちづきの方々 ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定)
	11月	・講習会「気候変動と私たちの暮らし」 →講師：ロジャー・マクドナルド ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定)
	12月	・講習会「農業から見た気候、環境の変化」 →講師：地元の農家の方 ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定)
	1月	・講習会「環境問題と手仕事」 →講師：NPO法人多津民芸館の方々 ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定)
	2月	・講習会「気候変動と私たちの暮らし」 →講師：ロジャー・マクドナルド ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定)
	3月	・講習会「気候変動と私たちの暮らし」 →講師：ロジャー・マクドナルド ※20名限定で行うなど、密な空間にならない工夫をする (新型コロナウイルス感染症の状況次第では、オンラインに変更する予定) ・今年度の行事参加者へのアンケート実施 ・講習会の内容をまとめた冊子の発行及びWebサイトにて報告

<p>地域や社会にどのような利益がもたらされるか</p>	<p><「公益性」の視点> 気候非常事態宣言を行った長野県の政策とも通じる取り組みです。この気候危機・環境問題を世代を越えて地域で共に考え、学び、行動に移すことは、成熟した社会を形成していくことと考えます。その結果、望月の魅力を再認識することや、学んだことを発信することによって気付きを共有したり、地域の身近な人たちで力を合わせて気候危機・環境問題に取り組む視点が生まれるといえます。</p>
<p>市内へどのように取組が波及していくことが見込まれるか</p>	<p><「波及効果」や「発展性」の視点> 望月地区の各区へパンフレットの回覧や望月有線放送で講習会の参加者を募集します。講習会を通して気候危機・環境問題の現状を世界視点で知った参加者一人一人が、それぞれの生活の中で環境問題と向き合うようになっていくことを期待しています。また、今年度の講習会終了後に内容をまとめた冊子やWebサイトにて報告を行い、多くの方に取組を知っていただき、興味・関心を持ってくださる方を増やしていきます。</p>
<p>どのような点に独自性や工夫があるか</p>	<p><「発想の豊かさ」や「創意工夫」の視点> 世界の最新の情報をダイレクトに日本語に訳して提供できる強みがあります。竹かごのように地域の材料を使った地元の民芸や、リサイクルの先駆けといえる古布を使った手仕事、気候の変化に敏感な農家の方々との意見交換をすること、地産地消エネルギーへの取り組みなど、自然が身近にあり、農業を生業とし、また古くからの生活の知恵を持ち続けている「信州ならではの」気候危機・環境問題との向き合い方、発信の仕方であるといえます。</p>
<p>活動を継続するためにどう取り組むか</p>	<p><「自立性」の視点> 地域の方々に定期的な発信をしていきます。 ・パンフレット、Webサイト、SNSにて最新の情報の発信 ・講習会（大人にも子どもにも発信できる内容） ・同じ望月地域のNPO法人の団体と作る講習会や、竹かご作りという子どもから大人まで楽しめるワークショップなど、内容が偏らない企画を立てていく。 新型コロナの影響がある場合は、オンラインにて参加できるものが中心となる予定です。</p>
<p>翌年度以降の活動内容概要</p>	<p>今年度は、講習会やワークショップを通して、地域で気候危機・環境問題に取り込むきっかけをつくることを目標としています。翌年度以降は望月地域の中で具体的な行動（アクション）を起こすことを目標としています。気候変動によって増えるであろう災害に備えたハザードマップ作りなど、専門家の方々のアドバイスを受けながら取り組んでいきます。また、引き続き世界最新の情報の発信や講習会開催、農業、手仕事、エネルギー問題、リサイクルなど、地域の先輩方から学んだ知恵を発信していきます。</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>この事業は、段階的に地域で協力者を得てアクションを起こす計画になっています。今年度は、一人でも多くの人に「気付き」が得られる機会を作ること、また、講習会やワークショップを通して、「地域で取り組む」きっかけを作ること目標としています。翌年度以降は災害に備えたハザードマップ作りなど、具体的な行動（アクション）を起こし、最終的には、佐久市の気候非常事態宣言を促すような提案をできるように取り組んでいきたいと思います。</p>

特記事項